

美 260 学

カンギレムの医学論とアランの芸術論の交差 —両者の技術への評価を手がかりに—	宇都 広樹	1
ベルクソン哲学におけるポイエーシス論の展開 —詩人から哲学者、そして神秘家へ—	持地 秀紀	13
反演劇性の伝統とタブロー—マイケル・フリードの絵画史観—	折居 耕拓	25
保田與重郎の初期の文業における美術の影響 —古美術と棟方志功に着目して—	遠藤 太良	37
ナンシー・ホルト《暗黒星の公園》(1979-1984) についての考察 —パブリック・アートとしてのアースワーク—	松本 理沙	48
編集された「クレド」の神学—グノーシスとシューベルト—	堀 朋平	59
いけばなにおける切り花の生—いけ手との協同作業で自らを実現する—	柳川 太希	71
書評		
岡田温司 著『映画と黙示録』みすず書房、2019年	安部 孝典	83
井奥陽子 著『バウムガルテンの美学—凶像と認識の修辞学』 慶應義塾大学出版会、2020年	桑原 俊介	88
例会・研究発表会発表要旨		98
学会消息・編集後記		108
欧文要旨		114